

体育学部体育学科

科目コード	25100	区分	専門基礎科目	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	体育原理	担当者名	早田 剛	○					
		実務経験との関連	医療機器製造業会社での研究開発者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

体育原理とは、体育の本質的追求である。また、よい体育とは何かを明らかにし、それを発展させるには何が問題であるかを科学的法則に基づいて、その原理を示す役割を持っている。本講義では、体育・スポーツの発生の契機、社会におけるその定着の歴史的な過程、その展開を平和的に管理するルールの特質、さらには現代社会におけるスポーツのあり方等を検討することにより、体育を重要な教材として取り入れる体育教育の今日的意味を再確認する。

<授業の到達目標>

体育・スポーツの基礎概念について考えていくことにより、体育学・スポーツ科学を専門的に学ぶための基礎的知識を身につけるとともに、体育・スポーツを批判的に検討できる能力・思考の育成を目指す。

<授業の方法>

授業の流れ 1. 予習課題の確認 (約10分)

2. テーマに沿った解説と問いの提示① (約10分)

3. 意見交換：上記テーマに即した意見提出とディスカッション (約20分)

4. テーマに沿った解説と問いの提示② (約10分)

5. 上記テーマに即した意見提出とディスカッション (約20分)；字数制限有

6. プレゼン発表もしくは課題レポート作成次週課題の確認 (☑自宅学習：約30~60分)

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニングの要素有 (ディスカッション、ディベート、グループワークの方法)

3から4人のグループに分かれ、各回毎のテーマについて意見をまとめグループごとに発表を行う。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

予習課題：20%、意見交換：20%、授業後レポート：40%、※最終レポート：20%として、総合的に評価する。

<教科書>

B5判/218ページ (令和4年度発行版) <https://www.taishukan.co.jp/hotai/high/product/?type=textbook&id=59>

現代高等保健体育 保体「701」 () ISBN:9784469663198

大修館書店

<参考書>

友添秀則、岡出美則 編 (2016年) 「教養としての体育原理」大修館書店

高橋 徹 編 (2021年) 「はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学」サンメッセ株式会社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	体育原理とは	1) ガイダンスとして、授業概要を確認する
2	体育とは	2) 体育原理という学問が必要なのかについて学び、体育学科を卒業する意味を検討する
3	体育とスポーツは何が違うのか	体育とは何か、体育の理念はどう変わってきたかを学び、自分の意見を検討する
4	身体からみた体育の可能性	体育とスポーツの混同と混用について学び、自分の意見を検討する
5	体育で競争をどう位置付けるか	学校教育と身体教育について育てるべき「身体」を考え、(できる)とはどういうことかを検討する
6	体育における人間形成	体育における競争とはどういう位置付けるかを学び、自分の意見を検討する
7	体育と指導者	体育における人間形成とはどういう意味かを学び、自分の意見を検討する
8	スポーツと科学	体育教師とコーチは何が違うのかを学び、自分の意見を検討する
9	運動部活動の意義と課題	スポーツ科学は、様々な情報(データ)に基づいて、スポーツ活動を充実させるためのアイデアを提供する学問分野を理解し、活用方法についての自分の意見を検討する
10	プレイが生み出す体育の可能性	運動部活動の意義と課題を学び、自分の意見を検討する
11	スポーツとルール	スポーツとプレイ(遊び)について学び、自分の意見を検討する
12	スポーツと文化	ルールの正しい「解釈」が必要であることを理解し、自分の意見を検討する
13	スポーツとビジネス	身体に文化を伝承するプロセスについて、教育的な行為との関係から学び、自分の意見を検討する
14	スポーツと社会	スポーツにおけるビジネス化の構造やそれを牽引する仕組みについて理解を深めるとともに、課題について検討する
15	スポーツとコミュニティまとめ	1) スポーツとコミュニティを取り巻く現状と課題について理解を深め、地域づくりなどについて検討する 2) 体育原理を総括する

体育学部体育学科

科目コード	25103	区分	専門基礎科目	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	発育と発達	担当者名	田中 耕作	○					
		実務経験との関連	民間会社（スポーツ科学企業）・専門学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本講義では、幼少年期における身体の形態や機能が変容していく発育と発達と老化についての基礎的知識を習得することを目的とする。

<授業の到達目標>

発育発達と老化の観点から、体力と運動能力、また運動発達の知識を身につける。また、その知識を（公財）日本スポーツ協会公認「ジュニア・スポーツ指導員」はじめ、体育・スポーツ指導者資格取得に繋げることを目的とする。

<授業の方法>

各テーマに沿った内容を資料やパワーポイントを用いて解説する。また、毎時間において、前時の講義内容について小テストを実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日常の授業における実践的な態度および小テストを含む課題提出（70%）。また、最終講義を終えた上でのまとめのテスト（30%）を実施し、以上を総合的に評価する。

<教科書>

教科書は使用しないが、各單元ごとに資料を配布する。

（公財）日本スポーツ協会（2019）「公認ジュニアスポーツ指導員テキスト専門科目テキスト」（公財）日本スポーツ協会
杉原隆・河邊貴子（2014）「幼児期における運動発達と運動遊びの指導-遊びの中で子どもは育つ-」ミネルヴァ書房

<参考書>

（財）健康・体力づくり事業財団（2008）「健康運動指導士養成講習会テキスト」（財）健康・体力づくり事業財団

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	体力とは	体力と運動能力について
3	健康とは	健康に関する概念について
4	からだ（形態）の発育発達	発育発達期の身体の発達について
5	発育発達期におけるケガの実態	発育発達期に多いケガや病気について
6	発育発達期の運動プログラム	コーディネーションとは
7	動作の発達と体力測定①	幼児体力指針と新体力テスト
8	動作の発達と体力測定②	歩く・走る・跳ぶ
9	動作の発達と体力測定③	投げる・捕る・体を支える
10	運動発達の捉え方①	体力・運動能力の発達と遊びの効用
11	運動発達の捉え方②	運動発達における年齢と性差
12	運動発達の捉え方③	運動コントロール能力における年齢と性差
13	老化と生活習慣①	フレイルとは？
14	老化と生活習慣②	メタボリックシンドロームとロコモティブシンドローム
15	まとめ	全時間の講義内容のまとめ

体育学部体育学科

科目コード	36501	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	運動器の解剖と機能	担当者名	河野 儀久			○			
		実務経験との関連	医療機関所属のストレングス&コンディショニングコーチ、アスレティックトレーナーとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

機能解剖や運動学に関する専門的な知識を有し、スポーツ傷害を受けた競技者の競技復帰までのリハビリテーションにあたることのできる技能を持つ指導者の養成を目指している指導者の基礎となる運動器の解剖や機能概論の知識養成を図ることを目的としている。

<授業の到達目標>

ヒトの運動器が人体とどのように関わっているのか、その機能解剖や生体力学の知識は運動器に拘わらずすべてのリハビリテーションを行うにあたっての基礎であり必須であると思われる。リハビリテーションの参考になるとと思われる機能解剖と生体力学について解説する。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

なし。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト等の課題 50%、定期試験50%で成績評価する。

但し、定期試験において60%以上の評価点を取得した者に対し前記の成績評価を行う。

事前学習、小テストに関するフィードバックは講義中または個別に行う。

<教科書>

財団法人日本体育協会（2011.2.1）「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト②」日本スポーツ協会

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	上肢・下肢・体幹の機能解剖と運動
2	運動器の構造と機能①	上肢帯の運動
3	運動器の構造と機能②	肩関節の運動
4	運動器の構造と機能③	肘関節の運動
5	運動器の構造と機能④	手関節の運動
6	運動器の構造と機能⑤	股関節の運動
7	運動器の構造と機能⑥	股関節の運動
8	運動器の構造と機能⑦	足関節の運動
9	運動器の構造と機能⑧	足関節の運動
10	運動器の構造と機能⑨	手指関節の運動
11	運動器の構造と機能⑩	上肢帯の筋・血管・神経
12	運動器の構造と機能⑪	下肢の筋・血管・神経
13	運動器の構造と機能⑫	頸部の筋・血管・神経
14	運動器の構造と機能⑬	腰部の筋・血管・神経
15	まとめ	総合学習

体育学部体育学科

科目コード	38200		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保健体育科指導法Ⅰ(基礎) PP+他学科		担当者名	久田 孝			○		
			実務経験との関連	高等学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職について指導する。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、教科「保健体育」を中心とした学校体育の諸活動を対象に、その教育方法上の原理を明らかにする学問であり、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。自分の経験を振り返り、自らの思考の枠組みをくずしながら、学習指導要領をもとに、最新の保健体育科教育の方向性について理解し、『21世紀の学校体育の在り方』を探究していく。

<授業の到達目標>

1. 保健体育科の基礎的知識を習得し、学習指導要領に示された意義や目標・内容を理解することが出来る。
2. 学校体育における今日的課題を整理し、これからの学校体育の在り方について考察を深め、論理的に言語化することができる。
3. 積極的に事前・事後学習・レポートに取り組むことができる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・質疑応答）
2. 省察活動（まとめと振り返り）
3. 協働的活動とディスカッション
4. 資料の提示や課題の提示、提出等はGoogleclassroomで行う。また、確認テストは主にGoogleformを用いて実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

小テスト30%、期末試験60%、授業への取り組み10%で総合的に評価する。小テスト・定期試験では、保健体育科の基礎的知識や学習指導要領に示された意義や目標・内容についての理解度を評価する共に、授業中の意欲的態度、課題の遂行度を評価する。レポートは、授業内で扱われた理論を自分の中で再構築して適切に論述しているものを評価する。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月）「学校学習指導要領解説—保健体育編—」東山書房
高橋健夫他（2010）「体育科教育学入門」大修館書店

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方
2	保健体育科教育学で何を学ぶのか	授業の構造と教師の役割
3	保健体育とはどのような教科なのか	体育の持つ特異性と危険性
4	学校制度と保健体育科	学習指導要領の歴史的変遷と社会的背景
5	今、保健体育科に求められているもの	保健体育科の今日的課題と方向性
6	保健体育科で育みたい資質・能力	学習指導要領における保健体育科の目標の検討
7	体育の学習内容とは	運動の特性と分類
8	体育における教材と学習内容をめぐる議論	運動という文化の構成要素
9	体育のカリキュラム	年間指導計画の事例検討
10	体育の目標と内容の関係	体育の学習内容の捉え方による相違点
11	体育の授業づくりと動機づけ	自己決定論、子どもの自発性と教師の指導性
12	体育の学習形態	学習形態の類型
13	体育の学習評価	学習評価の現状と課題
14	保健体育科の内容構成	学習指導要領における分野・領域
15	まとめ	これからの保健体育授業を考える

体育学部体育学科

科目コード	38201	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	保健体育科指導法Ⅱ(応用) [PP 教員希望者用]	担当者名	坂本 康輔/清田 美紀			○			
		実務経験との関連	高等学校教員、小学校教員、教育委員会職員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職について指導する。						
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、中学校・高等学校の普通免許状（保健体育）の取得要件として設定されている専門科目である。すでに履修している保健体育科指導法Ⅰの基本的な知見をもとに、保健体育科の授業の在り方について探究すると同時に、各領域の授業デザインの検討を通して保健体育科の教材開発・授業計画について学ぶものである。したがって、本科目の履修は「保健体育科指導法Ⅰ（基礎）」を習得している者に限る。

<授業の到達目標>

1. 学習指導に関わる基礎理論・知識を習得し、教材を開発・作成することができる。
2. 保健体育科の授業における「授業設計」及び「学習指導案」を計画・立案することができる。
3. 教師として保健体育科の授業を行うということの自覚と責任と実践的指導力を身に付けることができる。
4. 協働学習に主体的に参加し、積極的にグループに貢献できる。

<授業の方法>

1. 講義及び対話的活動（教員による解説と問いかけ・Google Classroomを用いた質疑応答）
2. 協働的活動（個人・ペア・グループワーク）
3. 模擬授業と授業観察（ICT機器を用いた資料提示や撮影を含む）
4. 省察活動（まとめと振り返り）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有。指導案の作成及び各種目の特性についてグループワークやディスカッションを行います。
また、模擬授業の際は映像を見ながらFBを行い、改善点を発見する方法を採用します。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

筆記テスト 20%， レポート 20%， 指導案20%， 模擬授業20%， 教師として授業に臨む態度20%で総合的に評価する。マイクロティーチングでは受講態度も評価対象とする。とりわけ協働的活動における積極性・貢献度を重視して評価する。指導案は、多様な情報収集と授業構成要素を踏まえた緻密な計画を評価する。

<教科書>

文部科学省（平成29年7月）「中学校学習指導要領解説 保健体育編」東山書房
文部科学省（平成30年7月）「高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編」東山書房
衛藤 隆，友添 秀則 ほか（2022年3月20日）「現代高等保健体育」大修館書店

<参考書>

岡出美則他（2021）「体育科教育学入門」大修館書店
杉山重利・高橋健夫・園山和夫（2009）「保健体育科教育法」大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	①授業の概要と進め方について ②良い体育授業とは何かを考える
2	学習指導要領を理解する①	学習指導要領が示している内容について理解を深める
3	学習指導要領を理解する②	学習指導要領の内容を調査し、意義を見つける
4	学習指導案の書き方について①	学習指導要領に基づいた指導案を作成する
5	学習指導案の書き方について②	単元計画の作成
6	確認テスト	学習指導要領の理解度を測るテストの実施
7	運動領域の特性について①	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
8	運動領域の特性について②	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
9	運動領域の特性について③	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
10	運動領域の特性について④	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
11	運動領域の特性について⑤	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
12	運動領域の特性について⑥	学習指導要領に示されている各運動領域の特性に触れる
13	確認テスト/指導案の作成	学習指導要領の理解度チェック及び模擬授業に向けた取り組み
14	模擬授業を実践する①	マイクロティーチング
15	模擬授業②	マイクロティーチング

体育学部体育学科

科目コード	65047	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	キャリアマネジメント I	担当者名	岩田 知郎/延原 まどか			○			
		実務経験との関連	中学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	2年	配当学期	後期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

中学校・高等学校の教員採用試験を受験するために、体育の基本となる内容（スポーツのルール等）を習得する。（3年、4年で保健体育の教員採用試験を受験者対象）

<授業の到達目標>

- ・教員の適性を確認し、他者と協働しながら学ぶ態度を身に付ける。
- ・様々なスポーツ種目の特性やルール等を理解する。
- ・プレゼンテーション能力を身に付ける。

<授業の方法>

- ①与えられた課題（各種目のルール等）をグループごとで協力し合い調べ、プレゼンテーションをする。
- ②教壇に立つことを意識し、わかりやすいプレゼンができるようにする。
- ③グループで調べまとめることにより学生同士の相互の学びあいを大切にしていく。
- ④毎回、前時のミニテストとミニレポートを実施し、学びを深める。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有。

前時のミニテストをすることにより、理解度を深めることが出来る。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション・グループ活動：20%、レポート得点：30%、ミニテスト：20%、最終テスト：30%

<教科書>

2025年9月1日予定「27年度 中高保健体育の完全攻略」
時事通信社

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業ガイダンス	授業内容を理解する グループの確認・分担確認
2	オリンピック 先輩からのアドバイス	教員採用試験について（先輩からのアドバイス） オリンピックについて学ぶ
3	器械運動	器械運動について理解する 前時のミニテスト実施
4	水泳	水泳について理解する：前時のミニテスト実施
5	体づくり運動 陸上競技	体づくり運動、陸上競技について理解する：前時のミニテスト実施
6	陸上競技	陸上競技について理解する：前時のミニテスト実施
7	陸上競技	陸上競技について理解する：前時のミニテスト実施
8	球技：ベースボール型	球技について理解する：前時のミニテスト実施
9	球技：ゴール型	球技について理解する：前時のミニテスト実施
10	球技：ゴール型	球技について理解する：前時のミニテスト実施
11	球技：ネット型	球技について理解する：前時のミニテスト実施
12	球技：ネット型	球技について理解する：前時のミニテスト実施
13	武道	武道について理解する：前時のミニテスト実施
14	ダンス	ダンスについて理解する：前時のミニテスト実施
15	まとめ 確認テスト	これまでの授業のまとめ、確認テストを実施する

科目コード	65019	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	公務員と法	担当者名	平野 正樹			○			
		実務経験との関連	公務員（大蔵省官僚）としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目では、市場機構の不完全性である市場の失敗、中でも公共部門の役割についての経済学的かつ制度論的な内容を理解することを目的とする。これを基に現代の経済的かつ財政的課題についてのケース・スタディーを通じて、公的主体の意義を学ぶ。そして、本科目を受講した学生が国内外の経済・財政問題に対して、コメントできるようになることを目途に授業を展開する。

<授業の到達目標>

授業を通じて、経済における「公的部門」と「民間部門」の相違とそれぞれの主体である「公」「民」の行動目的についての理解を図る。また、市場経済を中心とした経済社会で生じる諸問題(市場の失敗)について、その原因を分析するとともに国家財政や地方財政が抱える制度論的課題にも言及する。そして、経済・財政問題の改善・解決策に向けて公がとるべき諸政策について何らかのコメントができるようになることを一つの目標とする。

<授業の方法>

その都度、資料を配布する。板書を中心とするが、内容によってはPPT等で視覚的に分かりやすい方法も活用する。授業の理解度を高めるため、適宜レポートの提出を課す。各講義の終わりにディスカッションを行う予定。各講義の終わりに、講義内容を踏まえた双方向のディスカッションを行う予定。講義内容によってはその理解度を確認するため、PPTの活用などによる双方向での授業を予定。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有。
講義内容の理解度を確認するため、ディスカッションやPPTの活用などによる双方向での授業を実施する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題(小テスト)80%と出席率等20%で成績評価をする。なお、課題(小テスト)については模範解答を提示・説明する。

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	市場経済とパフォーマンス 経済の仕組みと公的部門	経済の仕組み 市場経済と公共部門の役割 経済学と経営学との相違など
2	市場の失敗とは	市場における外部性と公共財の存在
3	財政学と財政の三機能(I)	財政学とは何か 財政学の誕生と発展
4	財政学と財政の三機能(II)	資源配分機能 所得再分配機能 経済安定化機能
5	国と地方の財政の姿	国家財政・地方財政の歳入・歳出予算 予算の編成過程など
6	公共サービスと財政のかかわり(I)	公共財の性質 公共財供給の効率性
7	公共サービスと財政のかかわり(II)	多数決と公共サービス 公共財の最適供給と公平な負担
8	租税の基礎理論	租税原則と租税体系 効率と公平のトレード・オフ
9	所得課税	所得税と住民税の仕組み
10	消費課税	消費税の仕組み 従価税と従量税
11	資産課税	固定資産税と相続税の仕組み
12	国債と地方債	国債と地方債の種類 公債の負担
13	裁量的な財政政策とマクロ経済	乗数効果 財政政策の有効性
14	地方交付税と地域間所得再分配	地方交付税と国庫支出金の仕組み
15	総括	財政実態の国際比較

体育学部体育学科

科目コード	36505	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	検査・測定と評価	担当者名	畑島 紀昭			○			
		実務経験との関連	柔道整復師、鍼灸師としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

体力や身体機能の評価を進める上で必要となる検査測定手技について、その目的と意義を理解し、具体的に実技できるまでの能力を習得することをねらいとする。尚、本授業は一部オンデマンド教材等使用し行うため、PCまたはタブレットを準備の上、履修すること。

<授業の到達目標>

体力や身体機能の評価についてその意義と考え方を学び、具体的な評価による問題点の抽出までのプロセスを理解し、実践できる能力が身につくようになることを目標とする。

<授業の方法>

予習を重視する。予習用の資料を配布し、教科書を基に予習をおこなった上で授業・実習等を進めていく。各テーマに対してグループワーク・ディスカッションを行う。オンデマンド資料提示や課題の提示、提出等はGoogle Classroomで行う。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有。

検査法などと実際に体験し、学生間でグループワークを実施し評価を互に行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲（出席評価、授業への積極的な参加、適宜出される課題） 60%，最終課題・発表（最終課題，発表）40%

<教科書>

特になし

<参考書>

公益財団法人日本スポーツ協会（2007年9月30日）「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤・検査・測定と評価」

（財）健康・体力づくり事業財団（2008）「健康運動指導士養成講習会テキスト<下>」（財）健康・体力づくり事業財団

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション及び総論	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	スポーツ現場やトレーナーにおける検査・測定と評価の概論（1）	評価の目的、意義および役割、機能評価のプロセス
3	スポーツ現場やトレーナーにおける検査・測定と評価の概論（2）	機能評価に基づくアスレティックリハビリテーションおよびコンディショニングの目標設定、プログラム立案
4	検査・測定の手法（1）	姿勢・身体アライメント、筋萎縮の観察、計測の目的と意義、計測方法
5	検査・測定の手法（2）	関節弛緩性検査の目的と意義およびその検査測定
6	検査・測定の手法（3）	関節可動域測定の目的と意義および測定方法
7	検査・測定の手法（4）	筋タイトネスの検査測定方法
8	検査・測定の手法（5）	徒手筋力検査の目的と意義およびその検査方法
9	検査・測定の手法（6）	機器を用いた筋力、筋パワーおよび筋持久力の検査測定の目的と意義およびその検査測定方法
10	検査・測定の手法（7）	全身持久力の検査測定の目的と意義およびその具体的手法と測定指標
11	検査・測定の手法（8）	敏捷性および協調性の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
12	検査・測定の手法（9）	身体組成の検査測定の目的と意義およびその具体的手法
13	検査・測定の手法（10）	一般的な体力測定（新体力テスト）の検査項目とその目的と概要
14	検査・測定の手法（11）	一般的な体力測定（高齢者、幼児期）の検査項目とその目的と概要
15	まとめ	検査・測定方法に関する総合討議

体育学部体育学科

科目コード	62008	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	健康管理とスポーツ医学	担当者名	河合 洋二郎			○			
		実務経験との関連	現職の内科医・スポーツドクターとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2単位	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

アスリートにみられる内臓器官などの疾患では、疾患の病態、症状、対応策、処置、予防措置について理解させること。感染症に対する対応策では、スポーツ現場および海外遠征時に注意すべき感染症の種別、病態、症状、対応策、処置、予防策について理解させること。

<授業の到達目標>

アスリートにみられる病的現象では、病的現象（オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群など）の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する対抗策、処置、予防措置について学ぶことをねらいとする。この他、スポーツ選手にみられる摂食障害、減量障害、飲酒、喫煙などの問題点について学ぶことをねらいとする。特殊環境のスポーツ医学では、高所、低圧、高圧、暑熱環境などでの運動時における生体反応、順応、そしてそれらの環境下での障害について学ぶことをねらいとする。年齢・性別による特徴では、女性、高齢者、発育期の子供の生理的特徴、運動時に対する応答、特異的な障害について学習することをねらいとする。内科的メディカルチェックでは、メディカルチェックの意義、必要性、その内容、実施方法などについて学習することをねらいとする。ドーピングコントロールでは、アンチドーピングの目的、ドーピングの定義などをアスレティックトレーナーが理解するとともに、スポーツ選手を指導することができるようになることをねらいとする。

<授業の方法>

教科書を基に、必要に応じて資料を配布して講義を進めていく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：無

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

定期試験 100%

<教科書>

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト④ 健康管理とスポーツ医学」日本体育協会

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (1)	循環器系疾患（スポーツ心臓、不整脈、虚血性心疾患、Marfan症候群など）呼吸器系疾患（慢性肺疾患、運動誘発性喘息など）
2	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (2)	消化器系疾患（運動時の腹痛、消化管出血、下痢、急性肝炎など）血液疾患（貧血など）皮膚疾患（胼胝腫、摩擦水疱、白癬など）
3	アスリートにみられる内臓器官などの疾患 (3)	腎・泌尿器疾患（運動性蛋白尿、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿など）代謝性疾患（糖質代謝異常、脂質代謝異常、糖尿病、肥満など）
4	感染症に対する対応策 (1)	呼吸器感染症（上気道感染症、インフルエンザ、伝染性単核球症、重症急性、呼吸器症候群など）血液感染症（A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎、HIV免疫不全ウイルスなど）
5	感染症に対する対応策 (2)	皮膚感染症（細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症など）ウイルス性結膜炎（咽頭結膜炎など）
6	感染症に対する対応策 (3)	海外遠征時に注意すべき感染症（SARS、マラリア、旅行者下痢症、デング熱など）各競技別ルールにみられる感染症対策
7	アスリートにみられる病的現象など (1)、小テスト	オーバートレーニング症候群・突然死・過換気症候群、小テスト
8	アスリートにみられる病的現象など (2)	摂食障害・減量障害・飲酒・喫煙の問題点
9	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (1)	（生体の反応と順応、各環境でみられる障害とその処置、予防方法など）時差（時差に対する反応と順応、時差に対する対策）
10	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (2)	海外遠征時の諸問題（健康管理、環境管理、その他）
11	特殊環境のスポーツ医学：年齢・性別による特徴 (3)	女性のスポーツ医学、高齢者のスポーツ医学、成長期のスポーツ医学
12	内科的メディカルチェック (1)	メディカルチェックの意義と必要性・対象別メディカルチェックの内容。メディカルチェックにおける検査項目
13	内科的メディカルチェック (2)	運動負荷試験の目的と方法・運動負荷試験の実際。運動負荷試験結果の判定基準。
14	ドーピングコントロール	アンチドーピングの目的、ドーピングの定義、禁止される物質の種類。注意すべき市販薬、事前申告を必要とする薬物、ドーピング・コントロール・ステーション同伴時の留意事項。
15	まとめ	まとめ

体育学部体育学科

科目コード	40102		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	バレーボール I (基礎) [PP用]		担当者名	十河 直太			○		
			実務経験との関連	専修学校専門課程科目担当者、大学スポーツサービスルームスタッフとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは、簡単なパスゲームからコンビネーションプレーまで、多彩なバリエーションを展開することができる。また、バレーボールでは構造的な特性上、プレイヤー相互の協力と信頼が不可欠である。本授業では、基本的な技能、ルール、フォーメーション等についての理解を深めると共に、基本的な技能を高め、ゲームにおける相互の連携プレーを成功させることにより、仲間とともに、バレーボールの持つ楽しさや喜びが味えるようにする。

<授業の到達目標>

パスの基本、トスの基本、スパイクの基本を習得させ、3回使ったゲーム形式が展開出来ることを目標とする。直上オーバーハンドパス、直上アンダーハンドパスを30秒間落とさず行うことができる。

<授業の方法>

実技を中心に展開していくが、必要に応じて資料を活用し、ルールや理論を理解させ、授業を進めていく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有

グループに分かれ、単元で学んだプレーについてディスカッションを行う。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 60%、実技テスト 40%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業内容の説明と導入	バレーボールの特性の理解
2	バレーボールの歴史について	今日までのバレーボールの生い立ちと現状の理解
3	バレーボールの特性に応じたウォーミングアップ	方法の理解と実践
4	基本的な技能について（1）	スパイクおよびブロック
5	基本的な技能について（2）	レシーブ、セット、サーブ
6	基本的な技能の複合練習（1）	移動パスやグループ練習
7	基本的な技能の複合練習（2）	三段攻撃
8	基本的な技能のまとめ（1）	複合練習と実技テスト
9	基本的な技能のまとめ（2）	複合練習と実技テスト
10	ルールと審判法	ルールについての理解と審判方法の具体
11	試合形式（1）	リーグ戦
12	試合形式（2）	リーグ戦
13	試合形式（3）	リーグ戦
14	試合形式（4）	リーグ戦
15	まとめ	総合的レポート

科目コード	40101		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	バスケットボール I (基礎)		担当者名	國友 亮佑			○		
			実務経験との関連	事業団スポーツチームのストレングス&コンディショニングコーチとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バスケットボールは世界各国で親しまれている競技人口の多いスポーツである。また、中・高等学校の体育の授業においてもバスケットボールはゴール型の選択種目として採用されている競技である。本授業では、バスケットボールの競技特性及び競技ルール理解し、その基礎技術（シュート・ドリブル、パスなど）を身につけ、個人と集団のファンダメンタルや集団戦術を習得し、身につけた力でゲームを楽しむことを目的にしている。また仲間とともに楽しむ力を身につけ、生涯にわたりバスケットボール競技を楽しむ力を養うことを狙いとする。

<授業の到達目標>

- 1 バスケットボール競技を安全に配慮しながら、仲間と共に目的ある活動を行うことができる。
- 2 バスケットボールにおける競技特性や基本的な競技ルールを十分に理解することができる。
- 3 個人技術や集団戦術の修得に向けての練習法についても理解し、仲間と協力・工夫しながら実践することができる。（スキルについては、教員採用試験出題レベルが出来るようになる）

<授業の方法>

実技形式が基本となり、グループ活動を中心に展開する。必要に応じて資料を配布し解説を行い、各技能習得に関するデモンストレーションを実施する。また、情報や仲間の意見や考え方等をDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

要素：有。グループワーク

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 40%、実技テスト40%、知識レポート20%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概念
2	基本技術の習得（1）	ボールハンドリング技術
3	基礎技術の習得（2）	ドリブル技術の練習
4	基本技術の習得（3）	パス技術、キャッチング技術
5	基本技術の習得（4）	シュート技術の練習①（レイアップシュート）
6	基本技術の習得（5）	シュート技術の練習②（ゴール下、セットシュート）
7	基本技術の習得（6）	シュート技術の練習③（ジャンプシュート）
8	基本技術の習得（7）	リバウンド、スクリーンアウト
9	基本技術の習得（8）	ディフェンススキル、フットワーク
10	応用技術の習得（1）	2メンレイアップシュート、ミートシューティング
11	応用技術の習得（2）	3メンレイアップシュート、アウトナンバー
12	実践技術の習得（1）	ルールの理解、コート理解、3対3
13	実践技術の習得（2）	リーグ戦①（5対5）
14	実践技術の習得（3）	リーグ戦②（5対5）
15	まとめ	実技試験

体育学部体育学科

科目コード	40119	区 分	コア			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	ラグビー	担当者名	小村 淳			○			
		実務経験との関連	日本代表選手、実業団チーム選手、ヘッドコーチとしての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ラグビーとは、2つのチームが競技規則及びスポーツ精神に則り、ボールを持って走り、パス、キックを使いグラウディングして、できる限り得点を多くあげたチームがその試合の勝者となる。試合を行う為の基本スキルを実技として行う。

<授業の到達目標>

基本スキルのランニング、ハンドリング、キック、コンタクト、ユニット（スクラム/ラインアウト/キックオフ）から指導し、ルールに基づきボールゲーム形式でラグビーを理解させることを目的とする。

<授業の方法>

実技学習では、グループに分かれてスキルごとにフォーカスポイントを伝え実施する。ルールやゲーム理解については講義や映像での説明を行う。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度（積極性・協調性・相互促進性など）30%、基本スキルの評価40%、応用スキル30%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	授業内容説明	ラグビー競技の説明、授業計画説明、注意事項説明
2	個人技能 (1)	ランニングスキル、ハンドリングスキル
3	個人技能 (2)	ランニング、ハンドリング応用スキル
4	ボールゲーム	ルールの説明と実施
5	個人技能 (3)	キックと個人技能 (1) (2) のレビュー
6	個人技能 (4)	キック応用、コンタクトスキル
7	キッキングゲーム	ルール説明と実施
8	ゲーム	ボール&キッキング
9	集団技能 (1)	スクラムの説明と実施
10	集団技能 (2)	ラインアウトの説明と実施
11	集団技能 (3)	キックオフ、ドロップアウトの説明と実施
12	集団技能 (4)	スクラム、ラインアウト、キックオフ応用
13	ゲーム (1)	ルール説明と実施
14	ゲーム (2)	ルール説明と実施
15	まとめ	ラグビー競技の理解と映像での試合観戦

体育学部体育学科

科目コード	40120	区分	コア科目		実務経験のある教員等による授業科目				
授業科目名	サッカー	担当者名	降屋 丞		○				
		実務経験との関連	プロスポーツチームスクールコーチとしての実務経験がある教員が、実務経験をもとに教職について指導する。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択必修

<授業の概要>

サッカーは世界で最も親しまれているスポーツのひとつであり、ルールも非常に単純で、ボールとゴールさえあればできるスポーツである。しかし、主に足でボールを扱うことから経験者と未経験者との技術の差が大きく表れるスポーツでもある。この授業では、ボールを扱う技術を高める練習法を学び、技術を高め、ゲームを楽しめるようにする。そして、サッカーというスポーツに対する理解を深める。

<授業の到達目標>

サッカーの技術を習得する練習・指導法を学び、自らも技術を上達させる。特にリフティングが30回できるようにする。また、戦術面の練習も行い、サッカーへの理解を深める。そして、ゲームの中でルールも学び、サッカーのゲームを楽しめるようにする。

<授業の方法>

幅広くコミュニケーションが取れるように、授業ごとにグループを編成し、授業の最後にはゲームを行う。履修上限60名

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、実技テスト 50%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・アンケート
2	基礎技術のトレーニング(1)	ボールフィーリング、ボールタッチ
3	基礎技術のトレーニング(2)	ドリブル
4	基礎技術のトレーニング(3)	各種キック
5	基礎技術のトレーニング(4)	パス、トラップ
6	応用技術のトレーニング(1)	ターン、ボールキープ
7	応用技術のトレーニング(2)	フェイント
8	ボールポゼッション(1)	少人数でのボールポゼッション
9	ボールポゼッション(2)	多人数でのボールポゼッション
10	個人戦術	1対1
11	グループ戦術(1)	2対1、2対2
12	グループ戦術(2)	3対2、3対3
13	グループ戦術(3)	4対4
14	リーグ戦	リーグ戦の進め方
15	トーナメント戦	トーナメント戦の進め方

体育学部体育学科

科目コード	40121	区分	体育実技	実務経験のある教員等による授業科目					
授業科目名	ソフトボール	担当者名	山本清人/原田 悠平 佐藤 伸之	○					
		実務経験との関連	担当者の中で高等学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの基本的な技術（例えば、ボールの持ち方、投げ方、バットの握り方、グラブの操作方法など）を学ぶ。また、守備の基本（投球、守備）から攻撃の基本（打撃、走塁）などの個人技術の習得を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。本授業は履修人数制限を設けています。※履修者が制限を超えた場合は受講日を調整する場合があります。

<授業の到達目標>

- 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。
- 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。
- 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとする

<授業の方法>

実技を中心にグラウンドで実践指導を行う。バッティング・守備及びピッチングなどの理論が必要なときは随時説明をする。

- グループワーク（予習内容に関する確認）
- 実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示） タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。
- ディスカッション（問題提示に対する回答）
- 省察活動（まとめ）

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

グループごとに課題達成に向けて、達成目標を設定し、そのための方策を計画し実践した上で、再点検をして、再度実践するという課題を設定させる。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、予習10%、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

<教科書>

特になし

<参考書>

財団法人日本ソフトボール協会「ソフトボール指導者教本」日本体育社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	指導者のあり方（ガイダンス）	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	ソフトボールの歴史	ソフトボールの誕生・発展、ソフトボール情勢
3	ソフトボールの技術と指導法（1）	投球の基礎技術 投球モーションのフォームと特徴
4	ソフトボールの技術と指導法（2）	守備の基礎技術 送球・捕球、守備位置と守備範囲
5	ソフトボールの技術と指導法（3）	守備の基礎技術 ポジション別の技術
6	ソフトボールの技術と指導法（4）	打撃の基礎技術
7	ソフトボールの技術と指導法（5）	バントの基礎技術
8	ソフトボールの技術と指導法（6）	走塁の基礎技術
9	集団技術の理解（1）	ポジション別守備練習と連係プレー
10	集団技術の理解（2）	試合形式シートバッティング
11	総合的ゲーム展開（1）	紅白戦で実戦練習（1）
12	総合的ゲーム展開（2）	紅白戦で実戦練習（2）
13	総合的ゲーム展開（3）	紅白戦で実戦練習（3）
14	打撃系実技到達度確認	試合形式でバッティングテスト
15	守備系実技到達度確認	試合形式でポジション別守備テスト

体育学部体育学科

科目コード	40104	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	ハンドボール I (基礎)	担当者名	仙波 慎平			○			
		実務経験との関連	日本代表選手、実業団チーム選手、日本ハンドボール協会情報科学委員会委員、アナリストとしての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

ハンドボールは、ヨーロッパで発展した、スピーディーでダイナミックなプレーが人気のボールゲームである。走・跳・投という基本的な運動要素がバランスよく含まれており、発達段階にある子供に対しても有用な教材として学習指導要領にも取り上げられている。本講義では、ハンドボールの基礎、専門的運動技能と実技指導能力を学習する。(1クラスの定員50名とする。)

<授業の到達目標>

ハンドボールのルールと競技特性を理解し、ゲームを楽しむことができること、ボールゲームとしてのハンドボールの成り立ちに着目した上で、ゲームに必要な基礎的技術、戦術を身につける。

<授業の方法>

実技を通して、ハンドボールを学習し、随時その理論的背景を説明する。また、資料、映像等を必要に応じて活用し講義授業をすすめていく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有
グループワーク (7~10人グループにわかれ、運営等を行う)

<成績評価方法> ※課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

授業態度 50%、技術・戦術遂行能力・運動学習能力 30%、レポート 20%

<教科書>

特になし

<参考書>

笹倉清則 (2003) 「Tactics of Handball in The World」財団法人日本ハンドボール協会
酒巻清治 (2012) 「基本が身につく ハンドボール 練習メニュー200」池田書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	授業の説明、ルール説明、ハンドボールの映像観察
2	個人技術の習得	パス・キャッチ技術の習得
3	個人技術の習得 (2)	シュートの種類、基本動作の習得
4	原始的ゲーム	基本的ルールの説明、少人数での速攻ゲーム
5	対人的技術・戦術 (1)	1対1状況における攻撃と防御の基礎スキル、少人数ゲーム (1)
6	対人的技術・戦術 (2)	1対1状況における攻撃と防御の応用スキル、少人数ゲーム (2)
7	グループ戦術 (1)	2対2状況における攻撃と防御の基礎スキル、ゲーム (1)
8	グループ戦術 (2)	2対2状況における攻撃と防御の応用スキル、ゲーム (2)
9	ゲーム (1)	ゲーム実施およびその運営
10	ゲーム (2)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営 (1)
11	ゲーム (3)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営 (2)
12	ゲーム (4)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営 (3)
13	ゲーム (5)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営 (4)
14	ゲーム (6)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営 (5)
15	ゲーム (7)	課題抽出とその修正、ゲーム実施およびその運営 (6)

科目コード	40202	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	バレーボールⅡ(応用)	担当者名	坂本 博秋			○			
		実務経験との関連	実業団チーム指導者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	1単位	授業方法	実技	卒業要件	選択

<授業の概要>

バレーボールは集団のスポーツであり、集団による協力が重要である。球技種目履修の意義は、球技種目における個人技術の向上、技術、戦術の理解や、体力トレーニングの方法を学ぶだけでなく、この集団による協力の重要性を、ゲームを通して肌で感じることにある。また単に技術向上をねらいとするだけではなく、将来指導者、教員を目指すことを想定し、指導法についても講義する。なお、バレーボールⅡ（応用）は、バレーボールⅠ（基礎）を修得していることが履修の条件となる。

<授業の到達目標>

スパイク技術、レシーブ技術、ブロック技術、サーブ技術を向上させると同時にそれらを指導できる力を身につけることを目標とするとともに日本バレーボール協会公認コーチ1の受験資格取得を目指す。

<授業の方法>

日本バレーボール協会公認コーチ資格取得カリキュラムに沿って展開していく。

<アクティブ・ラーニングの要素有無、有る場合はその方法>

アクティブ・ラーニング有
グループ・ディスカッションや指導実習など

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲と授業態度 40%、実技テスト及びレポート 60%

<教科書>

日本バレーボール協会（2017年2月10日版）「コーチングバレーボール（基礎編）」大修館書店

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	内容説明と導入	指導者資格について
2	指導者の在り方	指導者とは
3	バレーボールの歴史	バレーボールの生い立ちと現状の理解
4	競技規則と審判法（6/9）	競技規則の理解と審判トレーニング
5	ビーチバレーボールの指導法と競技規則（1）	技術理解と戦術について
6	ビーチバレーボールの指導法と競技規則（2）	練習方法と練習計画
7	グループ・ディスカッション	コーチングについて
8	指導実習（基礎Ⅰ）と救急法（1）	基礎技術の指導（パス、アタック、ブロック）と救急法実習
9	指導実習（基礎Ⅰ）と救急法（2）	基礎技術の指導（サーブ、レセプション）と救急法実習
10	練習計画の立案	練習方法の理解と配分について
11	ウォーミングアップとクーリングダウン	方法の理解と実践
12	初心者導入法（2/4/6/9）（1）	導入方法の理解と指導実習
13	初心者導入法（2/4/6/9）（2）	練習方法と指導実習
14	フォーメーション（基礎）	フォーメーションの理解と実践
15	実技試験とレポート	総合実技テスト及びレポート